

地球「を」食うか、 地球「で」食うか

アイトワ代表 森 孝之（嵯峨）

パンデミックを好機にしたい

おりしも世界はパンデミックで孤立や分断に追いやられている。本来は、新型コロナウイルスを人類共通の敵としてとらえ、世界は結束して当たるべき好機であったと思われる。そこで、善後策を考えた。

中世欧州を襲ったコレラによるパンデミックは、ルネッサンスに結び付け、近代を切り拓く契機になった。この度も、人類共通の幸運に結び付けたいものだし、それはあながち無理でも無謀でもない、と気付いた。

地球「を」食い潰す社会システム

まず世界はこれまで、総軍事費の数10分の1程度しか感染症対策費に割いてこなかった。

次いで男性は、武器を手にとると、時にはその分泌量を100倍にも増やす好戦的ホルモン・テストステロンを保有している。

3点目は、かつてアメリカは、入植者が持ち込んだコレラ菌などで95%もの先住民を死に追いやったと言われており、いわば手つかずの天然資源を、ほしいままに消費財や武器などに替える社会システムとライフスタイルを普及させ、繁栄した国である。

そのアメリカを、資源小国のわが国は、食料の自給を怠り、模倣と追隨に明け暮れているが、大丈夫か。

加えて、人類は地球「を」食い潰しかけていることに気付くべきだ。過去30年間で、その総重量を1.5倍に増やし、3億トンにしており、この3億トンを哺乳類の総重量比で言えば36%である。残る60%を家畜に占めさせ、野生動物をわずか4%に追

い込んできた。かつて地球で最も栄えた哺乳動物は鯨だが、その総重量は4500万トンに過ぎず、人類は地球「を」食い潰しつつある、と断言できる。

地球「で」食う道へ

そこで、男性はテストステロンの保有とその働きを自覚し、その支配から脱却し、人類は疑心暗鬼の心を解き、あらかたの軍事費を感染症対策費などに振り替えたい。

そのために日本は、かつて300もの藩を統一し、鉄砲狩りも果たし、自給自足で300年もの間、戦争を起こさず経済成長させた江戸時代を思い出し、打って出てはどうか。

憲法第9条を有し、堅持している上に、永世中立を誓えば、過去の戦争が犯させたすべての罪を、戦争が犯させる人類共有の負の遺産として位置付ける資格を手にし得る。しかも、戦争の愚かさや無駄などを具体的に説くこともできる。つまり、地球「を」食いつぶす前に、地球「で」永遠に食って行く道を切り拓くために人類は英知を傾注すべき好機だと訴え、その方向へと大きく人類がハンドルを切るように、日本は身を張って導く絶好の位置をえている。これが私の初夢である。



森小夜子・作（嵯峨）